



私は勤務していた仕事場の関係で、数年前から、松山近郊に住む外国人留学生やその家族の方と知り合う機会が多くなりました。彼らと親しくなるにつれて、「子どもが学校からもらってくる手紙が読めない」、「手続きに必要な日本語の記入が難しい」等、生活の中でわからないことや日本語が必要な時のお手伝いをすることがありました。特に、大人の方は、日本語の仕組みがわからないまま挨拶程度のことを覚えても、その先は自分で辞書をひくこともできません。自分の考えを表現しようにも、日本語では子ども以下のレベルにしかならないことに失望してしまう様子を度々目にしてきました。「日本語を学び始める人たちが、どういう知識から入っていけば効率的に理解しやすいのかな」と考えるようになったことが、日本語に興味を持ったきっかけです。

まず、私は日本語を学ぶ外国人のためのテキストを探してみました。しかし、種類は少なく、1つ1つの項目のページを見ても、何を教えさせたいのかがはっきりしません。私たちが英語を学ぶ時のように、段階に応じて文法表現のこれを学ぶ、という目的を明確にした教材が成熟していないように感じました。実際に活動している日本語教師の方から話を聞き、インターネットで教材の検索を重ねるうちに、それぞれの人たちが工夫して自分の教材づくりに試行錯誤している状況を知るようになりました。同時に、日本語教師として自立した生活を送れるだけの収入がある人は少なく、ほとんどの方がボランティアであることも知りました。私はこれまでと同様に、自分にできるだけのことをして外国人の方々の暮らしをお手伝いしたいと思っていますが、ボランティアは自分の生活基盤の安定を前提にしなければできません。そこが悩ましいところです。

そのような中、2018年から介護技能実習生の受け入れが拡大されることになり、受け入れの際には一定期間の日本語教育を行う必要がある、という話を聞きました。その仕事に関わる予定の人から「これからは日本語教育の資格を持った人が必要だ」という話を聞き、日本語教育能力検定試験の勉強を始め、その過程でこの講座を受講しました。

講座では、実際に日本語教師として従事されている方のデモンストレーションやグループディスカッション等があり、高校生からリタイア後の方までの幅広い世代の方が参加していました。様々な人がそれぞれの目的で日本語教育に興味を持っているのだなあ、と感じるとともに、留学生の方たちと『やさしい日本語』での交流活動を通じて「もっとこうしたらいいかも」、「こんな教材を使えば効率的かも」等と考えるヒントを得ることができました。また、県内には留学生よりも外国人技能研修生の数がとても多いと聞き、その人たちが日本で生活をして少しでも楽しめる余裕ができればいいな、と思うようになりました。講座の中で、日本語教育能力検定試験の資格を持っていれば、JICAのシニアボランティアで日本語教育分野での受験資格があると聞きました。これから10年ぐらいを外国人技能実習生の日本語教育に関わる仕事に携わること、60歳からはJICAシニアボランティアとして海外での日本語教育に携わることを目指したいと思っています。

介護技能実習生の日本語教育は、常勤のような状態で携わることができるのか、実習生の来日の頻度や人数がどのぐらいになるのか、不透明な状態です。しかし、今後、若年人口が減少して、労働人口は不足するのは目に見えています。政府の方針でも、「現在滞在資格とされている高度技能だけでなく、高度でない職種への外国人労働者の受け入れを可能にしていかななくてはならない」と報じられていました。私たちの老後を支えてくれるであろう外国人の方々に、「日本に来て、日本人と生活できてよかった」と思ってもらえる環境を提供できるように努力したいと思います。お互いの生活文化を理解しあい、長所取り込み合って私たちの生活も豊かになればいいと思っています。

また今後もこのような講座があれば、ぜひ参加したいと思います。

※Kさんは2017年の日本語教育能力検定試験に見事合格されました！